

# 子どもとつくる 安心安全な学校

(山陽小野田市立埴生小学校)

## 〈ねらい〉

学校・家庭・地域が連携して、学校安全3領域の観点から総合的に通学路の安全点検や安全マップづくり等を行う活動を行うことにより、地域ぐるみでの学校安全活動の充実を図るとともに、子どもたちが「自他の命を守る」という高い安全意識を育むことを目的として実施する。



## 取 組 内 容

- 1 実施期間：平成27年6月22日～平成28年1月26日
- 2 実施校：山陽小野田市立埴生小学校（校長：栗屋 智志）
- 3 取組内容

### 取組の方向性について

#### 《第1回 実践委員会の開催》

6月22日埴生小学校で、第1回実践委員会を開催しました。委員会では、市原・稲田両事故防止アドバイザー、福田少年安全サポーター、榎崎地域協育ネットコーディネーターにも出席をいただき、「子どもとつくる 安心安全な学校」の取組の方向性等について、熱心な話し合いが行われました。

その中で、「① 教員の自覚 ② 自分の身は自分で守る ③ 連携する」の3つを基本理念とし、子どもにとっては今まで受動的であった安全教育を能動的なものに変えていくという視点でテーマを「自分や周りの人を守るように、自分で決めて行動できる子どもになろう！」と決定しました。

子どもが「気付いたらやってみる」「やってみて気付く」の小さな経験の積み重ねから大きな判断力と実践力を身に付けさせるという取組を進めていくこととなり、具体的な取組の一つとして、幼保小と連携した「引き渡し訓練」を実施していくこととなりました。

また、会議に先立ち事故防止アドバイザー同行のうえ校内の点検を実施し、事故防止のための助言をいただきました。



〔校内点検①〕



〔校内点検②〕



〔第1回実践委員会〕

### 具体的な取組

埴生小学校で実施した主な具体的な取組としては、

- ①「安全を考える子ども会議」の実施
- ②保護者、地域、近隣幼保園、関係機関との連携（通学路の合同点検、合同引き渡し訓練）
- ③KYT（危険予測学習）の実施

## 《①「安全を考える子ども会議」の実施》

7月15日に、会議のテーマ（めあて）「自分や周りの人を守れるように、自分で決めて行動できる子どもになろう！」とした6年生（5名）5年生（6名）の児童が参加した会議を行いました。

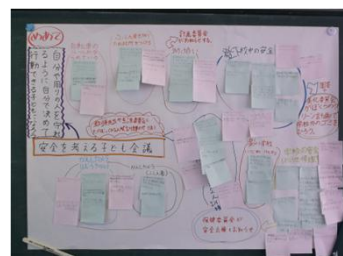
その中で、まず児童が①「安全で安心できる学校」はどんな学校だと思いますか？は青の付箋を、②また、埴生小は安心安全な学校になっていますか？はピンクの付箋を使って自分の考えをまとめて、付箋を貼りながら、③埴生小を「安全で安心できる学校」にするために、何ができるでしょうか？について、自分の考えを発表しあい、よりよい考えを生み出していくことができました。



〔会議の様子①〕



〔会議の様子②〕



〔KJ法でのとりまとめ〕

## 【子どもたちから出された意見】

### ○ 校内

・危ない遊びをしている人がいる／低学年が一人でいると危険／全校みんなが助け合えたり、注意しあえたりする学校にしたい／いじめやけんかのない学校にしたい。

→計画委員会が中心になって、みんなに呼びかけたりお知らせすればよい。

・運動場の体育倉庫の裏など、危ないと思う／修理はできていると思うけれど、どこが危ないかなどをまとめておけばよい／探してみると、危ない場所があるかもしれない／学校が古く雨もりも多い。古くてもきれいな校舎がいい。

→保健委員会が安全点検をする。

→美化・園芸委員会で「ぼくらのクリーン計画」

・避難訓練で、もっと高い場所へ逃げる訓練もしたほうがよい／先生に頼らず、高学年がお世話をする避難訓練をしてみたい／津波が来たときの避難訓練もするといい／不審者が入ってきたら怖い。

→教頭先生に頼んで、新しい避難訓練のやり方を考えてもらう。

### ○ 校外

・通学路の溝に蓋がないところがある／一列になって登校しない人がいる／体育倉庫の上から降りてくる道が急でこけそうになる／新しくできたコンビニの前には歩道が無くて危ない／自転車のルールを守れていない人がいる。

→生活委員会で危険箇所マップづくりをする。

↓

\*委員会活動を中心とした児童主体の安全活動を実施

## 【高学年が企画したブラインドでの避難訓練】

9月25日、高学年の児童が自ら企画して非常災害（地震）の場合の安全で迅速な避難方法を考え、避難の経路や仕方を確認する避難訓練を実施しました。低学年の児童は、中・高学年の児童の言うことを良く聞き、高学年の児童はよくお世話ができ、高学年の児童は「やればできると思った。」「やった甲斐があった。」等の達成感と自信を身に付けることができました。



〔低学年を誘導する高学年の児童〕



〔自らの判断で高台へ〕



〔振り返り〕

## 《②保護者、地域、近隣幼保園、関係機関との連携》

### 【通学路合同点検】

8月7日、山陽小野田市通学路交通安全プログラムに基づき、学校と関係機関（警察、道路管理者等）と連携した通学路合同点検を実施しました。

事故防止アドバイザーにも参加をいただき、危険箇所についての情報を共有するとともに、対策について協議を行いました。



〔危険箇所〕

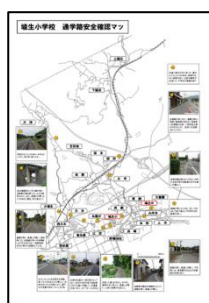


〔合同点検①〕



〔合同点検②〕

その結果を踏まえて「安全マップ」を作成し、できあがった安全マップに子どもの意見を反映させ、子どもの言葉で「ここは危ないけれど、こうすれば大丈夫」という「こうすれば安心マップ」を作成しました。



〔安全マップ〕



〔こうすれば安全マップ〕

### 【保護者、地域、幼保と連携した引き渡し訓練】

近隣の幼稚園、保育園と連携して、大規模災害や不審者事案の発生を想定した保護者への引き渡し訓練を初めて実施することとなりました。

#### ① 近隣幼稚園・保育園との連携

学校の周りは狭隘な道路が入り組んでおり、幼保小連絡会議において、引き渡し時の自動車の通行ルートについて協議し、一方通行のルートを設定することを決定しました。

#### ② 事前の周知とカードの配布（10月8日）

保護者へ引き渡しカード（右図）を配布するとともに、自動車の一方通行のルートを周知しました。

| 緊急時 児童引き渡しカード 植生小学校 |                      |        |         |
|---------------------|----------------------|--------|---------|
| 保護者氏名               | 児童氏名                 | 児童氏名   | 児童氏名    |
| 年 組 番               | 年 組 番                | 年 組 番  | 年 組 番   |
| 引き渡し者氏名             | 連絡先（電話 住所）           | 児童との関係 | 学校チェック欄 |
| 1                   | 自宅<br>電話<br>携帯<br>住所 |        |         |
| 2                   |                      |        |         |
| 3                   |                      |        |         |
| 4                   |                      |        |         |

#### ③ 見守りパトロール隊との連携

児童の下校の安全に万全を期すため、見守りパトロール隊を始めとする地域ボランティアに付き添いをお願いしました。

#### ④ 引き渡し訓練の実施

11月18日、雨天の中、大きな混乱もなく30分弱で無事に引き渡し訓練を終了することができました。

#### ⑤ 振り返り（反省）

訓練終了後は、教職員がその場で反省をまとめ、その反省を保護者に知らせるとともに、保護者からも反省や意見を提出してもらいました。

#### ⑥ 課題の確認

- ・運動場に集合してから児童を受付に誘導するまでにタイムラグが生じていたので、工夫する必要があること。
- ・自動車の流れと徒歩の流れが交差する動線があり、誘導者はいたものの、危険を感じることもあったこと。

#### ⑦ 今後に向けて

訓練の回数を重ねながら、引き渡しの際の安全性と時間効率を高めていくとともに、地域・保護者がノウハウを熟知し、教職員が代わっても滞りなく実施できるよう取組を進めていくこととしました。



〔運動場へ〕



〔引き渡し場所〕



〔帰宅の様子〕

### 《③KYT（危険予測学習）の実施》

実際に児童が校内で写真を撮り、KYT資料を作成するとともに、実践しました。



〔5年生の実践〕

- ① この写真で、危険な場所はどこですか。
- ② どのような危険が考えられますか。
- ③ けがを防ぐためには、どのようにすればよいですか。

|     |  |
|-----|--|
| 行 動 |  |
| 環 境 |  |

## 取 組 の 総 括

### 《第2回 実践委員会の開催》

11月18日、引き渡し訓練を終了後、第2回実践委員会を開催しました。

委員会では、白石教頭から今年度実施した埴生小学校での取組を紹介後、今後の埴生小学校での学校安全の取組について、熱心な話し合いが行われました。

また、会議に先立ち事故防止アドバイザーと一緒に、10月に保健委員会が主体となって行った「校内安全パトロール」の状況等を確認しました。



〔校内状況①〕



〔校内状況②〕



〔第2回実践委員会〕

## 4 成果と今後に向けて

### 《成果》

- 子どもたち自らが危険に気づき、安全意識が高まるとともに、上級生が下級生に危険な行動に気を付けるよう促すような行動の変容が見受けられるようになった。

(児童の安全意識の高揚及び行動の変容)

- 家庭や地域・関係機関と連携することにより、地域ぐるみでの学校安全の取組の充実が図られた。

(連携の強化)

### 《今後に向けて》

- 学校安全の取組は繰り返し行うことで精度を高め、家庭や地域と一緒にを行うことで、地域のプログラムに高めていきたい。

- 学校の安全に関する取組を学校のみにとどめず、地域に根付いた安心安全の取組へ昇華させていきたい。